秋田県議会議員

小野一彦（かつひこ）

「コマネズミ」の如く行動し思いを形にする!!

活動報告

Vol.07

第7号 令和4年12月発行 発行：小野一彦

秋田県由利本荘市上大野85－1
TEL. 0184-74-6736／FAX. 0184-74-6737
秋田県議会議員 小野一彦 検索
https://ono.akita.jp/

活動信条

●小野一彦でございます。10月県議会（令和３年度決算）及び10月、11月の活動報告を致します。人口減少に加え、コロナ、円安、ウクライナなど国際的な問題が私達の生活や生業に与える影響が益々顕著となっています。こうした中で、「令和３年度にどのような事業が行われたか」だけではなく「その結果どのような成果が生まれたかを掘り下げてチェックすること」が、「次の予算編成に生かす」ことや相互に関係する国や県・市町村における税金の使われ方を考える重要な参考」となります。このたび私は３年連続決算委員に選任（議員４３人中１１人）されました。決算審査のポイントを皆様に直接報告することは、皆様の国政や県政を考えるきっかけになるものと思い報告するものであります。なお、「字が小さい」というご意見を頂戴しましたので、要点部分を大きくしました。

●なお、昨日可決された12月補正予算等については、後日報告します。

由利本荘市民の生の声

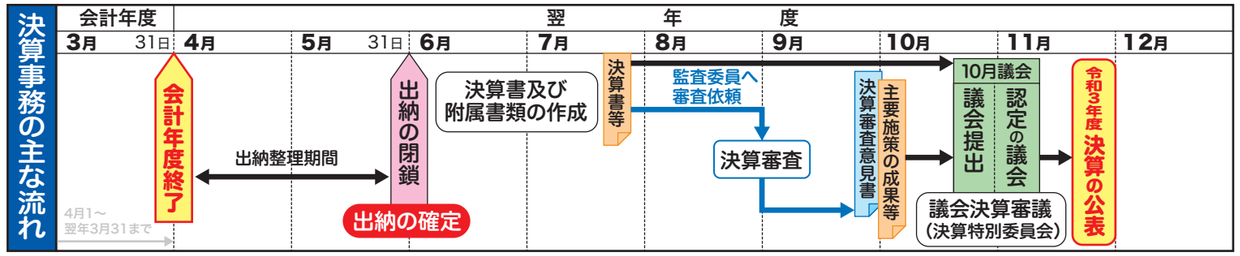
みなさまからのご意見やご質問など、是非お聞かせください！

本荘 石脇地区 Hさん

今の時期に決算審査するのはなぜですか？

小野からのコメント

会計年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日まで）の予算における収支の実績を、出納整理期間終了後に監査委員による決算審査などを経て、10月議会に提出されます。県議会では、県の事務事業の成果を審査し、決算を議会の認定に付します。



活動報告 2022

令和4年10月～11月まで

令和4年10月

議会・委員会

14日 本会議（再生をクリック！）
（令和3年度決算認定案提出・決算特別委員会設置・小野3年連続選任）
決算特別委員会部局別審査（議会事務局・人事委員会事務局・監査委員事務局・労働委員会事務局）
17日 決算特別委員会部局別審査：企画振興部及び農林水産部
18日 同上・健康福祉部及び観光文化スポーツ部
19日 同上・生活環境部及びあきた未来創造部
20日 同上・産業労働部及び建設部
21日 同上・教育庁及び警察本部
24日 同上・総務部及び出納局
31日 総括審査

政務調査・要望対応

1日 石沢学校食堂応援、健康の駅 秋田ゆりほんじょうフェスティバル
2日 石沢学校食堂応援
7日 地域振興局建設部：要望事項の対応状況及び方針確認、ロータリークラブ理事会・例会
8日 全国和牛能力共進会鹿児島大会：種牛の部視察
9日 同上肉牛の部競り視察
11日 秋田県関西県人会との意見交換会、三菱商事関西支社表敬訪問（WS打ち合わせ）
12日 真田関連交流（御田の方が生まれた九度山町長、前大阪城天守閣館長）
桜花昇ぼる真田幸村公演15周年記念イベント参加、御田の方の歌CD披露
24日 松ヶ崎振興会要望対応（県公安委員会）
25日 三菱商事幹部秋田県議会訪問・意見交換（小野と議会会議室にて）
秋田県の人材を育てるために行動する社長会議（秋田市イヤタカにて）
28日 福島O&Mアソシエーション訪問意見交換（市内異業種と同行）
30日 三菱商事秋田活性化ワークショップ第1回実行委員会（秋田市）
31日 県内観光協会等との意見交換会（秋田市）

行　事

15日 秋田県立由利工業高校創立60周年記念式典

写真 10/8・9 全国和牛能力共進会鹿児島大会

写真 10/12 真田関連交流

令和4年11月

議会・委員会

2日 決算特別委員会討論採決、本会議（決算認定）
21日 県政協議会
28日 本会議（12月県議会）、予算特別委員会、常任委員会（再生をクリック！）

政務調査・要望対応

1日 西目水力発電所訪問、県議会DXGX議員連盟発足・研修会
8日 中山間地農業の維持活性化勉強会現地視察（二ツ井町・小掛鬼神地区）
10日 地域振興局建設部：要望事項の対応状況及び方針確認（松ヶ崎振興会）
11日 県建設部道路課へ要望（4月5月市からの要望分）
国道107号大築工区、108号男鹿内～根子区間
県建設部河川砂防課へ要望（同上）
12日 石沢学校食堂応援、自殺予防対策（秋田ふきのとう県民運動大会）
13日 石沢学校食堂応援、矢島沢内川、県道鳥海矢島線流雪溝改良要望への完了確認
14日 ICT教育サポート事業者との意見交換
15日 若手農家（矢島町・小板戸）訪問意見交換・要望受け、由利町トラック運送産業との意見交換、地域振興局農林部訪問（若手農家要望対応）
16日 由利本荘市功労者顕彰式
17日 産業起こし会議（駅前わらべ唄）
18日 国土交通省本荘国道維持出張所へ要望、ロータリークラブ例会
20日 畜産議員の会（湯楽里にて）
22日 にかほ市企業訪問、本荘地区農家訪問
23日 孤独・孤立を防ぐためのつながり研修会（秋田大学）
24日 由利工業須田会長訪問、大東精機訪問、岩本公水公演（鳥海）
25日 ロータリークラブ例会
27日 市民が語る場&活動報告会（由利本荘アリーナ）

行　事

2日 由利本荘市商工会・優良従業員表彰式・交流大会
3日 秋田県立西目高校創立70周年記念式典・講演会・祝賀会　明日へ～フラハラウオメレアロハHULA&LIVE　2022
6日 イレブンパレット男女共同参画講演（講師）
19日 佐藤健一郎先生叙勲祝賀会、東由利体育協会創立50周年祝賀会
28日 医師連盟との懇談会

秋田県の事業紹介

◉若者と地域をつなぐプロジェクト事業

高校生等が企画する地域活性化に向けた取り組みの実現を支援し、若いうちから主体的に地域活動に関わる機会を創出した。

参加学校：秋田中央高校・能代高校・湯沢翔北高校・新屋高校・大曲農業高校・本荘高校・秋田公立美術大学・平成高校

◉的確な情報をベースにした高校生の県内定着促進【移住・定住促進課】

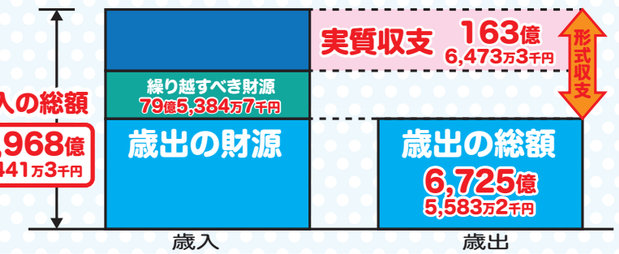
高校生に早い段階から県内企業や仕事に対する理解を深めてもらうため、全県において、高校1年生向けに職場見学会や企業ガイダンス、経営者講話等を実施した。全地域振興局において、高校2年生向けに企業説明会や企業PR冊子の配布等を行った。
あわせて、若者定着支援員による早期求人開拓や高校訪問など、高校生が企業理解を深める取組を行った。その結果高校生の県内就職率は前年度を**2.9ポイント上回る75.4%**となり、地元定着思考が高まりつつある。

高校生も秋田のために頑張ってます!!

秋田県議会 令和3年度 一般会計決算

令和３年度の秋田県一般会計歳入歳出決算を認定しました。

実質収支＝歳入総額-歳出総額-翌年度へ繰り越すべき財源



▼令和2年度 決算概況

比較増減額	歳入決算額	歳出決算額	翌年度へ繰り越すべき財源	実質収支額
	↑8億6,237万7千円	↓58億5,659万6千円	↑35億9,071万1千円	↑31億2,826万2千円

▼令和3年度決算に基づく健全化判断比率・資金不足比率について

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づいて算定した、「健全化判断比率」については、右のとおりです。

健全化判断比率		R３決算	R２決算	早期健全化基準
	実質公債費比率（※3カ年平均）	14.9%（43位）	13.8%（43位）	25 %
	将来負担比率	229.9%（41位）	251.7%（42位）	400%

実質公債費比率とは 地方債（借金）の公債費（返済額）の大きさを、その地方公共団体（秋田県）の標準財政規模（通常の収入）に対する割合で表したもの。収入「100」に対して、借入金の返済が「14.9」です。

将来負担比率とは 地方債など現在抱えている負債（借金残高など）の大きさを、その地方公共団体（秋田県）の財政規模（通常の収入）に対する割合で表したもの。収入「100」に対して、将来払わなければならないお金が「229.9」です。

詳細はHPへ

決算のポイント ○令和3年度決算はどんな内容だったか

●コロナへの対応が最優先な年だった。感染状況により様々な対応がなされた。

●当初予算に加え、12度に及ぶ補正予算を編成し、感染予防対策・影響を受けている事業者への支援等、目の前の対応に加え、コロナ後を見据えた経済の回復、地方創生に向けた取り組みの充実を図った。

●あわせて、最終年度を迎えた第3期ふるさと秋田元気創造プランを推進するための事業や賃金水準の向上、人材確保対策、DXの推進、カーボンニュートラルへの挑戦など新プランに引き継がれる柱として引き継がれる施策を推進した。

主な活動成果（10月～11月）

- ■首都圏の若者による秋田への就職帰郷相談の増加等に対し、東京都にある秋田県無料職業紹介所やAターンサポートセンターの機能強化について知事に質問提案した結果、体制強化について答弁を得ました。（→10月4日総括審査）
- ■昨年の私の提案等により県当局は今年度から「決算報告の主要な施策の成果」の項目に「課題と対応方針」を創設（次ページ教育委員会質疑で例示）したほか、各地域振興局による中学生・高校生への地元企業PR等の取組を議会へ報告されました。
- ■4月に県の商店街飲食店街支援事業の活用について由利本荘市の二つの商店街や飲食業団体にPRし、10月等に活性化イベントが実施されました。
- ■関西県人会と意見交換会を行い秋田県産農産物へのご意見をいただいたほか、関西圏におけるサキホコレ販売店情報をお知らせ致しました。
- ■全国和牛能力共進会鹿児島大会を視察し、本県代表の皆様のご活躍を拝見し畜産振興の今後のあり方について理解を深めました。今後の支援に生かします。
- ■公約に掲げた歴史観光の一環として真田関連人材との交流を深め引き続きの双方向交流をお約束しました。（御田の方の人生が歌われたCD「真田物語」がご披露されました。）
- ■市内異業種により福島O&Mアソシエーションを再訪し、異業種による風力発電人材の育成について学びを深めました。今後の仕組み作りへ反映します。
- ■三菱商事に提案した「秋田活性化ワークショップ」が開催され実行委員として参加し、「人づくり」「まちづくり」「産業・雇用」について意見交換を行いました。
- ■男女共同参画の意見交換会に「ワクワク女性が拓く秋田の未来」と題してこれまでの取組事例を報告致しました。
- ■中山間地の農業の維持活性化勉強会を立ち上げ荒れ地をネギ畑に変えた能代市二ツ井の小掛・鬼神地区を視察しました。
- ■公約に掲げた孤立・孤独対策について、相談窓口と相談窓口をつなぐ伴走的な支援の重要性について理解を深めました。
- ■由利本荘アリーナにおいて「市民が語る場&活動報告会」を開催し広くご意見をいただきました。（12月県議会に反映）

10月議会 令和4年10月31日

令和4年第2回定例会 令和３年度に行われた県の事務事業の成果を検証しました

決算特別委員会 総括審査

スマートフォンでQRコードをかざすと議会の様子を動画でご覧いただけます。 再生をクリック！

理美容業など生活衛生事業者の地域包括ケアシステムへの参画について

質問 令和３年、コロナ禍で人と人との関わりが難しいという状況が継続し、なおかつ人口減少で地域コミュニティの構成員が減ってきている。そうした中でこの事業を行い、担当部長は成果をどう分析されているか。

県の答弁（生活環境部長） 財団法人の秋田県生活衛生営業指導センターの自主的な取組として、能代市と湯沢市で生活衛生同業組合と研修会を開催し、生活衛生事業者が地域包括ケアシステムに参画して在宅の生活支援サービスをを提供する方向性を確認しようとするもの。県としてもこの取組は高齢者の生活の質の向上につながるとともに、生活衛生事業者の安定経営にも資するものと評価している。この成果を踏まえ、令和４年度県がセンターに補助を出して５市町村で会議を開催し、そのうち横手市では具体的な取組を開催した。

質問 地域包括ケアを担当しており、かつドクターでもある健康福祉部長に、この取組についてどう評価されるかお伺いしたい。

県の答弁（健康福祉部長） 地域包括ケアサービスでは医療や介護がクローズアップされているが、やはり地域で生活をすることがベースにあるので、そのような生活支援は非常に有用なものと考える。横手市の見守りサービスもそうだが、医療とか介護に関わる人だけではなく地域全体で見守り何か、異常があったときにそれぞれ必要な関係機関につなげることが大事。このような取組を重要なものと認識し健康福祉部としても進めていきたい。

質問 生活衛生関係営業の適正化及び振興に関する法律は飲食店、食肉販売店、理容業、美容業、クリーニング業など１８業種だが、コロナ禍でエンドユーザーの意識が「清潔や衛生」に敏感になってきたのではないかと感じている。また、人口減少が続く中でいつも地域にいてくれて衛生にきちんと気を配り食やサービスを提供し、人と人をつないでくれる。こうした生活衛生事業者の方々の強みに光を充てた産業支援も必要と考えるが、産業労働部長はどう考えるか。

県の答弁（産業労働部長） コロナ禍で利用者の方々の意識も変わってきていると思う。このような地域の事業者が高齢者への日常的な生活への支援といった介護保険外のサービスに参入していくことは経営にも大変プラスになる部分があると思う。県内でも高齢者の困りごとへの対応を事業化しているケースもあることからそうした先進事例をお知らせし、そうしたニーズへ対応する過程について支援して参りたい。

部局別決算審査 令和4年10月14日～24日

令和3年度施策 質の高い学習の基盤となる教育環境の整備

施策内容 県任命のICT活用推進委員６人による教員研修会やICT活用推進リーダー対象の研修会等を実施するとともに、ICT活用推進モデル校３校による中間成果発表会を実施し、優れた取組を共有し、教員のICT活用能力を高める取組を推進した。

結果

課題 児童生徒のICT活用を指導する教師の指導力については、ICT教育が本格化する過渡期であり、学校ごとの差や教師個人の差が見られる。

今後の方針 全県指導主事等連絡協議会、学校訪問指導等において各学校のICT活用状況を把握するとともに、ICTを活用した授業改善支援事業推進校の取組実績について情報発信することで、校種間や学校間、教員間の差を狭め、ICT活用を指導する能力の平準化を図る。

モデル校とは モデル校は、各学校の子どもたちの実態を踏まえ、プログラミング教育の充実やICT機器を活用した授業づくりを先導的に推進し、その成果や課題を普及することで県下の児童生徒の学力の向上につなげようとするものです。

▼秋田県のモデル校（小学校３校・中学校３校）

小学校 大館市立城南小学校・男鹿市立船川第一小学校・湯沢市立湯沢西小学校　中学校 能代市立能代第一中学校・大潟村立大潟中学校・横手市立横手南中学校

教育委員会 ICTを活用した秋田の教育力向上事業について

質問 「ICTを活用した秋田の探究型授業」を推進するに当たっては、全県的に十分なノウハウが蓄積できていないほか、各校における教員の指導力に差があると課題を上げているが、ICT能力の格差だけに着目するのではなく、地域や地元産業の可能性を発見する学習等、探求型の学習を深め、子供たちの将来のふるさと回帰につなげる形で進めていただきたいが、どう考えるか。

義務教育課長 「全国学力・学習状況調査」において、児童生徒、学校の状況を調査する項目がある。その中で、ICTを目標とした教育の指導については、授業でICTを活用できるかという単純なものから、児童生徒のICT活用に適切な指導ができるかなどの質問項目がある。今までのようなチョーク&トークの、一方通行の授業をICT化しただけでは意味が無いとの指摘を頂いている。探求型授業という価値がある秋田県では、日本でもトップクラスのICT活用が出来るとのアドバイスも頂いており、これらを踏まえながらモデルを模索しているところである。モデルを確立させて全県に広げてまいりたい。

あきた未来創造部 次代を担う女性リーダー候補へのアンケート分析について

質問 あらゆる分野の次代を担う女性リーダー候補にアンケート調査を実施した、とあるがその結果についてどのように分析しているのか。

次世代・女性活躍支援課長 アンケートの中でリーダーとして活躍できない理由を聞いており、女性の意欲が消極的であること、家庭の理解が得られないこと、という回答が多かった。やはり自身だけでなく、家族や周囲の理解が大事だということを再認識できた。

あきた未来創造部 あきた若者サポートステーションの取組と現状について

質問 あきた若者サポートステーションの取組は、若者の自立に向けて非常に大事な取組だと思う。一部署だけでなく、庁内の健康福祉部や様々な支援機関との連携が必要だと思うが、どのような状況か。

次世代・女性活躍支援課長 庁内だけでなく、労働局、各種支援機関で構成するネットワーク会議で情報交換を行いながら、連携を図っている。

企画振興部 デジタル技術について

質問 秋田ICTフェア2021について、31の企業・団体がブースを設け、屋根に雪が積もった時のセンサーや災害に強いドローンなど、県民生活に役立つ展示が多くあったが、この内容は庁内各部署で情報共有され地域課題解決に生かされているのか。

デジタル政策推進課長 フェアのブースでは、商談の手前までいったような話もあり、出展者がコンタクトをとれるいい機会になったと考えている。アンケートの中でも、アニメコンテンツやVR技術、ドローンの活用に関して好評価であり、庁内のDX推進戦略本部会議でも、このような県内企業の事例を発信し、横展開を図っていきたい。

観光文化スポーツ部 米活プロジェクトについて

質問 秋田県は米粉用米の生産量が全国４位であるので、一次産業や観光への波及も考えて、米粉の活用を積極的に行うべきだと思うが、どのように考えるか。

食のあきた推進課長 あきたコメ活プロジェクト推進協議会等を活用して、商品開発等に努めていきたい。

健康福祉部 国民健康保険特別会計について

質問 保険者努力支援制度について確認したい。秋田県は年々全国順位が改善され、令和４年度は３０位だが、山形県は全国１位である。

国保・医療指導室長 被保険者や住民の健康増進、医療費適正化に向けて、国の支援を受けつつ県と市町村が協力して取り組むものである。山形県では、市町村にヒアリングを行い、国の方針や他市町村の取組を丁寧に説明しているようだ。秋田県では、専門家を委員とした委員会を年５回開催し、各市町村と話し合っている。

産業労働部 輸送機産業構造転換対策事業の実態調査の結果について

質問 県内企業１８２社に電動化に関する意向・方針の調査を実施したとあるが、調査の結果、チャンスがある業種などの気づきはあったか。

輸送機産業振興室長 これまで自動車関連部品の製造をしていないと思われた企業でも関係していることがわかり、新たな掘り起こしをすることができた。

健康福祉部 認知症予防対策について

質問 認知症予防の取組について確認したい。運動習慣や歩行速度等が関係しているという研究結果もあるが、他部局と連携して強力に推進していくという考えはないか。

国保・医療指導室長 認知症部会等で検討し、有効なものは市町村へ普及させたい。

農林水産部 秋田の農業をリードする競争力の高い経営体づくりについて

質問 農業法人等のモデル地区の設置について、どのようなモデル性があり、合併に至るまではどのような県のサポートがあったのか。

農林政策課長 モデル地区を５地区設定している。このうち、自ら発展的にやっていけそうなところを経営発展型モデルとし、支援が必要なところを地域持続型モデルとして設置し、支援している。事例としては、園芸品目を得意とする法人と土地利用型を得意とする法人が合併し、周年的に取り組むことができるようになったという実績がある。県としてはこうした成果をもとに引き続き横展開を図っていきたい。

総務部 財政健全化比率について

質問 今後、再生可能エネルギーに関するインフラ等の整備や産業道路の維持管理にも大きなコストがかかることなど、交付税の算定等に有利になるような要望活動を県として行っていくべきだと思うが県の考えは。

参事兼財政課長 今年度から財政課に財政企画班を設け、これまで以上に財政指標の分析や検証を行える体制を構築している。そこで、例えば地方交付税については、どういう観点であれば秋田県が他県に比して有利になるのかを分析し、国への要望や総務省への制度改正要望等を行っていきたいと考えている。

農林水産部 次代の秋田の林業をリードする人材育成について

質問 林業の現場でスマート機械などが導入され、女性の活躍の場として今後期待できると思うが、女性の人材確保や育成の方向性はどうなっているか。

森林整備課長 令和２年度に新規に林業に就業された方は１２２人おり、そのうち女性は３人。
また、現在、林業技術者として県内で従事されている方は１,３６８人おり、そのうちの女性は４６人となっている。女性の割合が増えてきている要因の一つとして、高性能林業機械が普及し、女性も働きやすい環境になってきていることが考えられる。女性が林業で働いている姿をSNSなどでPRし、林業事業体への女性の就業促進に向けて取り組んでいきたい。

小野かつひこ facebook

日々の活動を随時更新中！
小野かつひこ公式ホームページ